

オミクロン株を含む感染拡大に備えた宮城県の医療提供体制等

資料3-1

【現状】

- 1日当たりの新規陽性者数 414.6人（直近1週間平均）
- 療養者数 3,303人（1/29時点）・・・第5波の1.4倍

【対策】

（1）検査体制

- 現在の検査体制（県保健環境センター（240件/日）、県医師会健康センター（40件/日）、民間検査機関（2,150件/日））に加え1/1から無症状者の検査を無料で実施（実施期間を2/28まで延長）（1/28現在：37箇所 ※順次拡大予定）
- 各地域の検査数の急増に対して東北大学病院診療所の出張PCRを実施（仙南、塩釜など）

（2）医療提供体制

- 病床：今夏のピーク時の入院者数である303人の約1.7倍となる511床を確保
- 宿泊療養施設：1,710室（1/31）を運用。最大時2,600室を確保に向けて調整中

（3）療養（軽症者等）のあり方の切替（1/28～）

- 39歳以下で重症化リスクの低い患者は、原則自宅療養（パルスオキシメーター・生活支援品送付（乳幼児用等））
- 保健所が重症化リスクの高い患者対応に注力することと自宅療養者への確実なサポートの両立を目的として「自宅療養者フォローアップセンター」を開設
- 自宅療養者への医療支援：地域の実情に応じ診療（オンラインを含む。）・処方等を実施。県医師会・都市医師会と連携

（4）ワクチンの追加（3回目）接種

- 早期接種を促進するため東北大学ワクチン接種センターを12月20日から再開（最大5,000人体制（2/1～））
- 県内の新型コロナワクチンの3回目接種を前倒しする（接種実績3.4% 1/26現在）

（5）治療薬

- 経口薬：入院受入協力医療機関や宿泊療養施設で経口薬治療の体制構築
診療・検査医療機関が処方箋を発行し、対応薬局（223カ所）が、休日・夜間を含め療養先（自宅やホテル）に経口薬を配送する体制を県医師会・薬剤師会等と共に構築
- 中和抗体薬：入院受入協力医療機関等及び宿泊療養施設において、オミクロン株にも有効な中和抗体薬（ゼビュディ）治療の体制構築

自宅療養者フォローアップセンターの開設について

資料3-1補足

- 地域の自宅療養者を集中的に支援する「自宅療養者フォローアップセンター」を開設
- 保健所において重症化リスクのより高い患者の対応に注力することを目的として、センターが専ら健康観察等を行う

